

第 1 回河津川水系流域委員会の意見(1/2)

日時:平成 24 年 3 月 21 日(水)13:30~17:15 場所:河津町役場 会議室(2 階)

議題 1 流域及び河川の概要について

	項目	項目	前回委員会での事務局回答	今回委員会での対応
1	河川環境を考える 上での植物について	<p>○委員</p> <ul style="list-style-type: none"> 河川環境を考える上で、特定外来生物指定種に指定されているナガエツルノゲイトウ。青野川河川整備計画で見つかるまで、静岡県では知られてなかった。下田市でも確認されていることから、河津川の場合でも述べてゆく必要がある。 もう 1 つは暖かさを象徴する木であるウバメガシ。日本で群生する一番東の場所はこの見高浜の弁天島と知っている。 	—	<ul style="list-style-type: none"> 現地の植生を確認した結果を踏まえ、必要に応じ河川整備計画に反映させる。
2	桜並木の保存	<p>○委員</p> <ul style="list-style-type: none"> 昨年河川改修が行われ原公園から浜にかけて桜が伐採された。河川整備は生命、財産の安全、安心のためなので、やむを得ない実施であるが、先人たちが植えた桜は静岡県の 3 大祭りに成長し、年間の来遊客が約 100 万人となっている。その辺を考えながら、慎重に計画を練っていただきたい。 	<ul style="list-style-type: none"> 今後、河川整備をする上で、今後護岸改修を大々的に実施することはほとんどない。どうやって桜を残し、河川整備するか現在検討している。 	
		<p>○委員</p> <ul style="list-style-type: none"> 堤防の植樹基準について、堤防に木が植わって堤防が弱くなり、決壊した例があるのか。柳を堤防に植える柳枝工という伝統工法の例もある。 	—	<ul style="list-style-type: none"> 県内においては堤防上の樹木が枯れる等により堤防の強度が低下し決壊したという事例は報告されていない。しかし、堤防決壊の一般的なメカニズムは溢水・浸透・侵食等があり、洪水時においては、様々な要因が複合して発生していると考えられる。
3	峰橋下流の取水と 河川整備について	<p>○委員</p> <ul style="list-style-type: none"> 峰橋から下流側の 2 つの堰は存置するとあるが、堰より上流側のところで、農業用水を取っている所が何か所かある。計画に反映していただきたい。 	<ul style="list-style-type: none"> 調査がされているのかわからないため、必要性があれば調査したい。 	<ul style="list-style-type: none"> 取水施設については、その管理者が改修等を検討していくこととなる。改修の要望等については、賀茂農林事務所に相談されたい。
4	河床掘削のイメージ	<p>○委員</p> <ul style="list-style-type: none"> 河川整備後の護岸部がかなり切り立った感じのイメージになるが、これはどういう意図があったのか。環境の視点で動植物の生育にはどうなのか少し気になる。 	<ul style="list-style-type: none"> 極力河床の幅を確保するように、護岸は切り立てる計画にしている。環境に配慮する点については、御意見をいただきながら決めていきたい。 	<ul style="list-style-type: none"> 河川整備計画に位置づける対策の内容や河川環境への配慮事項等については、現在検討を進めているところであり、第 3 回以降の流域委員会において意見聴取を行う。
5	河津谷津川の河川 整備	<p>○委員</p> <ul style="list-style-type: none"> 河津川と河津谷津川の合流点と同じぐらいの水位になるため、河津谷津川では合流地点から 100m ぐらいの区間で越水している。 	<ul style="list-style-type: none"> 河川整備計画は、河津川本川だけではなく、支川河津谷津川、大鍋川も整備計画に入れて整備を実施する。 	<ul style="list-style-type: none"> 河川整備計画に位置づける対策の内容については、現在検討を進めているところであり、第 3 回以降の流域委員会において意見聴取を行う。
		<p>○委員</p> <ul style="list-style-type: none"> 河津谷津川の合流点のところは低く、狭いためたちまち溢れてしまう。昭和 51 年豪雨、平成 3 年洪水では河津谷津川が一番被害を受けている。河津谷津川の整備も考えていかないとだめだ。 		

第1回河津川水系流域委員会の意見(2/2)

日時:平成24年3月21日(水)13:30~17:15 場所:河津町役場 会議室(2階)

項目	項目	前回委員会での事務局回答	今回委員会での対応	
6	津波対策	<p>○委員</p> <ul style="list-style-type: none"> 東北大震災の津波を考えると津波が遡ってくる。東海・東南海・南海地震の3つ同時に起こったときを想定すると水没地帯になる可能性は、今度の河川改修では計算されていないのか。 	<ul style="list-style-type: none"> 3連動の話になると、今、国のほうでシミュレーションした結果をもとに、河津川についてもどんな対策をしていくか考えていく。 今、静岡県の計画では、東海地震が起きた場合の津波高がT.P.4.5mの波が河津川に来るということになっている。現在の堤防高は概ね満足しているが、一部もう少しかさ上げしないといけない部分がある。 新しい想定津波高が出るのはまだ先になってしまうため、今までの想定に対しては、どこが不足しているのか示す。 	<ul style="list-style-type: none"> 東日本大震災を踏まえた静岡県第4次地震被害想定（「第一次報告」平成25年、「駿河トラフ・南海トラフ沿いで発生するレベル1地震の津波の想定」平成27年）では、発生頻度が比較的高く、発生すれば大きな被害をもたらす「レベル1津波」と、発生頻度は極めて低いが発生すれば甚大な被害をもたらす「レベル2津波（最大クラス）」の二つのレベルの津波が設定されている。 施設整備としては、レベル1津波に対応することを基本としており、今回委員会において、その対策工法等について検討していく予定です。
7	河津浜河岸のゴミについて	<p>○委員</p> <p>河津浜河岸のゴミを何とか取り除くようにしてほしい。</p>	<ul style="list-style-type: none"> 景観については考えないといけない。 	<ul style="list-style-type: none"> 維持管理等により、適宜対応していきたい。
8	計画雨量について	<p>○委員</p> <ul style="list-style-type: none"> 河津川の基本方針24時間雨量約500mm対応はありがたいが、500mmの狩野川台風で大変痛い目に遭ったから、せめて700mmの辺まで天城で長く降っても大丈夫と考えていただけたらありがたい。 	<ul style="list-style-type: none"> 50分の1の確率だと2時間雨量で約128mmの雨が降る。その雨に対する計画を立案しているが、これによると昭和51年の洪水など過去の洪水はカバーできている。 	<ul style="list-style-type: none"> 河川整備基本方針では、流域面積、氾濫規模、氾濫区域内の人口や資産、県内バランス等を考慮して目標規模を1/50として定めている。 想定を超える洪水等の発生に対しては、水防活動や要配慮者への支援に加え、リアルタイムの雨量水位情報の提供や、洪水に対する危険個所の周知等のソフト対策も組み合わせた総合的な被害軽減対策について、関係機関や地域住民との連携を強化し地域防災力の向上に努めることとしている。